NIE実践報告

1．タイトル：社会参加への架け橋となる新聞記事を活かした授業のあり方

2．学校名

長野県木曽青峰高等学校

3．実践者名（代表者名）

社会科（平林洋一）

4．学年

１学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会科（公民科）・約３０名

6．単元（本時の学習課題）名

政治機構と国民生活（日本国憲法と国民生活　政治機構と国民生活）

7．目標(狙い)

行政権に関する基本的内容を今日の政治状況と関連づけながら理解することができる。
実際の社会が抱える政治的課題にの問題解決に向けて当事者意識を持ち、解決法を考えることができる。

8．評価の視点

行政権の基本的内容が理解でき、実際の社会が行政権に関して抱えている課題を知ることができる。
課題解決に向けての主権者として解決に向けての意欲を持つことができる。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

政治機構と国民生活　・国会の地位と役割（１時間）国会の権限・審議（１時間）議院内閣制（１時間）内閣の権限・現代行政と官僚制・行政の民主化（１時間・・・本時）　計４時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

公開授業時の学習展開
導入　新聞記事の紹介（チリ炭鉱事故１年　２０１１／１０／１３読売新聞）
展開　内閣の権限についての説明
　　行政権とは何か
　　行政の具体的な権限　憲法第７３条の条文
　　野田内閣が抱える課題を紹介しながら行政権の基本的な内容（権限）を学習。
　　・予算作成に関する概算要求の記事（朝日２０１１／１０／１）
　　・電力会社が国会議員のパーティー権を購入していることを取り上げている記事（朝日２０１１／１０／２）を取り上げ「鉄のトライアングル」、政財官の結びつきを実際の社会の一面に即して説明。
留意点　配布する記事には教師の解釈をできるだけ少なくする為、あえて線を引かずに提供した。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

生徒は配布した新聞記事を読みながら、教師の発問に的確に答えていた。
授業後アンケートは行わなかったので、個々の生徒の感想・意見は把握できていない。

12．成果と課題

成果　新聞記事を用いたことで生徒はリアルタイムの社会が抱えている課題についてその存在を知ることができた。
課題　多くの解決が求められる課題が存在することは理解できたが、解決に向けて行動できる力の育成には至らなかった。学んだことを解決に向けての行動に移すことができるように、授業展開を工夫しなければならない。